

郷づくり推進条例(仮称)素案作成に向けた協議会へのヒアリング結果

■条例全般

- 「みんなですすめるまちづくり基本条例」と「郷づくり推進条例」が二重構造に見える。内容が重複しないように、推進条例はあくまで「郷づくり推進」に限定して極力スリムにすべき。2つの条例の位置関係も明確にしてほしい。
- 条例は縛りが強いので、大切だからと何でも書き込むことはやめた方がいい。条例に書けないことは、どの例規に書き込むか整理して分かりやすく示せば、それでいいと思う。
- 条例ができることで、地域が何か義務を負わされるのかと心配になる。条例ができることで、地域にとって何が良くなるのか明確に示してほしい。
- 条例が活動者の指針となり、郷づくりの目ざす方向性がはっきりするといい。

■位置づけ・役割

- 「自治会があれば協議会は必要ないのではないか」と疑問の声がある。「郷づくり」の成り立ちから紐解いて考え、市民にとってやっぱり郷づくりは必要だとなれば、協議会・自治会・市の位置づけや役割を明確にしてほしい。
- 「市民公益活動※」の定義を追加してほしい(郷づくり基本構想P14)。
※ 市民及び事業者等が自主的かつ自発的に行う公益性のある活動。営利活動、宗教活動、政治活動などは除く。
- 郷づくりの目的、協議会の位置づけ・構成・役割を分かりやすく入れてほしい。
- 協議会への権限の移譲は、財源とセットで行うべきである(郷づくり基本構想P15)。
- 郷づくりがやるべき活動を明確にしてほしい(必須分野・選択分野など。郷づくり基本構想P26)。
- 条例の中で「代表者会議」を位置づけて、市に対してしっかり提案できるようにしてほしい。

■人財発掘・育成

- 活動者が集まらなくて困っている。
- 協議会運営者には、自治会との関係性を構築など資質がとても重要だが、発掘が難しい。市に積極的に関わってほしい。

■人的支援

- 地域担当職員にもっと踏み込んで郷づくりに関わってほしい。事業の企画段階から一緒に考えたり、市職員なりのアイデア出しや関係部署とのパイプ役を担ってもらいたい。
- 地域に関連が深い大型事業の進行中は、職員配置に配慮してほしい。
- 協議会だけでは各種団体との連携が進まない。拠点に市職員を配置してほしい。

■郷づくり推進事業交付金

- 「地域予算制度」が自治会に浸透していない。市も周知に力をいれてほしい。
- 算定基準を見直してほしい(検討委員会で検討中)。
 - 公平性のある基準にしてほしい。
 - 人財育成に力をいれるため、増額してほしい。
 - 人口規模ばかりでなく、環境保全する面積も考慮してほしい。
 - 自治活動推進事業「12 万円×自治会数」…一律 12 万円ではなく、人口規模を考慮してほしい。
- 交付金の使途の自由度を上げてほしい(自主財源の確保・事業計画変更の一任など)。

■郷づくり拠点

- 土日休館では市民が関わりにくい。休館日を見直してほしい。
- 拠点がせまく活動しにくい。拡大整備してほしい。

■啓発

- 郷づくりの認知度が上がるようにPRにも工夫が必要。市も啓発を強化してほしい。
- 拠点で行政サービスを行えば人が来るのではないか。

■自治会加入

- 自治会離れがすすむと、協議会運営に影響する。自治会加入促進に向けた市の対策を強化するように書きこんでほしい。
- 自治会加入促進に向けた成功事例や、地域で楽しく暮らすためのノウハウを、協議会や自治会に共有してほしい。

■その他

- 郷づくりを推進するには、市からの人・お金・場所の支援が必要。
- 他協議会の人と話す機会があり、多くの情報が得られた。協議会同士の横のつながりをつくる機会をもっと作ってほしい。
- 子ども会育成会が弱体化している。代わりとして、協議会で子ども育成に関する事業を行っていききたい。コミュニティ・スクールの連携強化が必要。
- 市のすすむ方向にモヤモヤする。例えば、育成会やシニアクラブは衰退しているのに、制度はずっと変わらない。市が課題のある組織を見直す時期に来ていると思う。
- 市は人のつながる機会としてキッカケラボを案内するが、ラボを機に人がつながるイメージが湧かない。事例が知りたい。
- ラボには地域に興味をもつ若い世代の人たちが集まっていて、郷づくりとつながる例もある。もっと協議会の人へのラボのPRが必要。